

# School Journal

スクール ジャーナル



# 2月



## 「子ほめ条例」

地域全体子どもをほめて育てようという「子ほめ条例」なるものをご存知ですか。「子ほめ条例」は愛称で、一般的には「〇〇市（町）児童生徒の表彰に関する条例」という名称で条例を制定した地方公共団体名を冠しています。地域全体で大人が子どもたち一人ひとりのいい点を見つけ、小学校や中学校の卒業までに市（町）長が表彰します。

元気賞、活発賞、明朗賞、親切賞、健康賞、体育賞、皆出席賞、無遅刻賞、読書賞、友情賞、ユーモア賞、スマイル賞、ボランティア活動賞、特技賞・・・など自治体によって様々な賞があるようです。そして、「あなたはくじけることなく活発に学校生活を送ったので、市（町）の決まりにより表彰します」と賞状と記念メダルが贈られます。

この条例の特徴は、学校の先生や地域の住民が、児童・生徒の優れた個性や能力、社会性などを家庭や学校、地域社会の中で発見し、学校長や公民館長などに推薦するという点です。そして、被表彰者選考委員会との協議を経て、表彰者が決定するというものです。小学校や中学校の卒業までに、子どもたち全員を表彰しようというのもユニークです。

1985年に栃木県国分寺町が全国に先駆けて制定して以来、比較的人口の少ない市町村を中心に現在全国で20弱の自治体が制定しています。表彰された子どもたちや卒業生には好評のようです。「大人に認めてもらって嬉しかった」「これからも頑張ろうと思った」「大きくなってもずっと覚えている」・・・などの感想が各自治体に寄せられているとのことです。

子どもたちに「生きる勇気を与えること」「生きる力を育む」ことこそ、教育の原点でしょう。

また、最近の事例では、兵庫県多可町の、町民全員対象の「一日に一度は人を褒める条例」が平成31年1月1日に施行されました。人と人が言葉を交わすことは、心と心を通わすことでもある。褒める言葉や感謝の言葉は、人々により一層寛容な心を養い、元気な社会づくりに大きく寄与できる。としています。 <野口>



※続きは「塾長日記」をご覧ください。

## お知らせ

### 学習状況報告

#### ● 「1月度 指導／学習状況報告」

次回の書面によるご報告（令和2年1月度）は、冬期講習以降の内容についてご報告いたします。2月中旬頃に報告書をお渡しする予定です。

また、お電話にて補足説明をいたしますので、よろしくお願いいたします。



## 進路相談会・保護者面談会



- 令和2年度 第1回 <中学受験>進路相談会（新小4～小6 中学受験生保護者）  
2/25（火）～3/2（月）
- 令和元年度 第3回 保護者個別面談  
3/2（月）～8（日）



## 対策授業・特別授業・特別講習・講座等

- **英検合格講座** ラクラク <2019年度 第3回 2次対策 検定日：2/23、3/1（日）> ※開講中  
<2020年度 第1回 1次対策 検定日：5/31> ※開講中
- 「文章を読む力」をつける講座 <全学年対象（無学年式）> ※開講中
- **入試直前追加授業** ※小6・中3 受験生対象  
冬期講習終了後の最初の土曜日（1/13）より、土曜日・日曜日を活用した入試直前授業を実施いたします。※土日以外の平日も受講可能です。
- **新中1 準備講座（算数・数学・英語）** ※小6 対象  
現小6生を対象にした、中学入学準備のための講座です。  
特に、数学でつまづかないために「算数」の強化を目的とします。さらに、数学・英語の予習をいたします。 ※小6生には既にご案内済みです。
- 公立中／私立中「学年末定期考査 対策授業」（無料）  
2月上旬（試験初日1週間前）より随時実施いたします。
- 「春期講習」 ☆3/26（木）開講☆ ※2月中旬に書面にてご案内いたします。



## 学力テスト／会場テスト

本年度  
最終回です。

- 令和元年度 月例学力テスト（有料） <総合学力テスト>  
第11回： 標準実施日 2/8（土）、15（土） 小4～小6、中1～中3  
※標準実施日以外の受験も可能です。  
当月内（実施月内）の受験であれば、成績処理ができますので受験可能です。  
2日間に分割受験も可能です。お気軽にご相談ください。



### インフルエンザ・ノロウイルス等の予防にご協力をお願いいたします

教室入室後は、手洗い・うがい・手の消毒を必ずするよう指導しております。  
教室の入り口と洗面所の2箇所に、「キレイ キレイ」（薬用消毒液）を置いてあります。

※「変わりゆく教育事情」はお休みします。



## ♪ 塾長日記 ♪ \*\*\* 「褒める」ことの難しさ \*\*\*

冒頭の「子ほめ条例」の続きです。

子どもたちをめぐって暗いニュースが続いている昨今、子褒ほめ条例の取り組みは、まちとしての一つの見識と言えるでしょう。しかし、その運営にあたっては課題も少なくないようで、検討するものの条例制定に至らない自治体が多いのも実情です。

「褒めるのは難しい。甘やかすのとは違うし、褒められてうれしいと感じないと、前向きな自信につながらない。条例という形がいいかどうかは議論があると思うが、こうした動きを機に、地域の大人が子どもたちを見守り、関わっていくことができれば」とは、「全国子どもをほめよう研究会」代表の福留勉さん（聖徳大教授）

もともと日本人は、人を褒めるのが苦手という指摘を聞きます。アメリカの学校では、褒めることが教育の根幹になっているそうです。手を変え品を変え、子どもを褒めます。子どもの氣をくじくような言葉は使わないようにして、自信を持たせ、自尊心を養っているようです。ですから、人前でも普通に自分の子どもを褒めたり自慢したりします。日本人はどうでしょうか。謙遜からか、気恥ずかしさからか見下げてしまいがちです。そしられた子どもは、“何で人前でけなすの？”と、ひどく嫌悪し悲しくなってしまいます。

さて、子どもを上手に褒めるには、ほめ言葉（語彙）が豊富かどうかもあるでしょう。子どもが絵を描いても、ただ「上手ね」だけでは子どもの心に届きません。まずは、一人ひとり子どもの魅力を発見すること、併せて“未熟さ”に気づくことではないでしょうか。どの子どもにも多くの魅力があるはずです。同時に未熟なところもあります。未熟ということは、言い換えれば、まだ成長していない、これから成長する可能性があるということです。子どもの魅力を理解すると同時に、これから成長するのをどう手伝ってあげられるかを考えるのが大人の役割と言えます。そういう点からも、褒めることには大きな意義があると思うのです。 <野口>



## Dr. 吉田のメンタルクリニック

\*\*\* 子どもたちに**元気な**  を <No.57> \*\*\*

## 「集中力を高める“色”」とは &lt;脳科学の視点から&gt;

## “照明”と“色”に関するアドバイス



## ◆青色 LED の効果

照明と集中力には密接な関係があることが、最新の医学研究によって明らかにされています。照明の上手な利用によって、集中力を高められることがわかってきています。

直接的な例ではありませんが、そのヒントとなるのが、最近、駅のプラットホームでよく見かけるようになった青色 LED 灯です。こちらの目的は、自殺防止なのですが、その効果は絶大です。東京大学が首都圏の 71 の駅について行った調査では、自殺者数が青色 LED 灯の設置後に 6 分の 1 に激減したという結果が出ています。当初は青い色によって心が落ち着くためだと言われていましたが、LED の青色は落ち込んでいるときには悲しい色に見えるという人が多く、自殺が減った理由は単なる色による心理効果だけでは説明できない、というのが現在の主流となっている考え方です。

## ◆青色の光が人間の脳を活性化する

それにかわって注目されているのは、青色の光が脳を活発に働かせる作用を持つ、という研究成果です。ボストンにある病院とハーバード大学の共同研究チームは、青色の光による脳機能の調査の結果、集中力が高まっていることを突き止めました。その後、青い光が集中力のほかにも様々な脳機能を高めるという研究結果が相次ぎ、青色 LED 灯で自殺者が激減したのは、心が落ち着いたからではなく、むしろ脳が元気になって理性的な判断ができるようになったためではないか、という考え方が一気に広がりました。

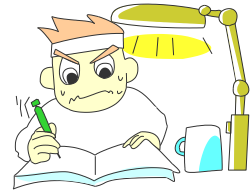
## ◆学習機の照明を工夫して集中力を高める ——波長の短い照明器具を——

こうした青色の効果は、子どもの集中力を高めるためにも活用できるので、ご家庭においても学習環境の照明器具にも気を配っていただきたいと思います。ご家庭では照明に青色 LED 灯を用いるわけにはいきませんが、室内の照明をより**波長の短い光**に変えることは可能です。

一般的な白色の LED 灯や蛍光灯であっても、光の波長には様々なタイプがあります。このうち「電球色」はオレンジがかった色をしていて光の波長が長いので、子どもの脳を刺激する効果はあまり期待できません。それに対し、「**昼光色**」は青白い光をしており、**実際に光の波長が短いので、脳機能を高める作用が発揮できます**。一方「昼白色」は、自然な白い色が特徴で、波長や脳への効果は「電球色」と「昼光色」の間です。

従って、ご家庭での学習環境における照明は、最も脳機能を活発にさせる「昼光色」を選択することが望ましいということです。さらに、照明器具を増やして明るくすれば、それに応じて脳が刺激を受けるので、こうした作用はさらに高まります。

※教室の照明は「昼光色」の蛍光灯を設置しています。



## ◆コンビニが煌々と明るい訳

実は、私たちの身近なところで、その効果はすでに幅広く実用化されています。それがコンビニエンスストアです。夜中に街を歩いていると、コンビニからの煌々と漏れてくる青白い光がやけに目に付きます。これは、店内を「昼光色」の照明器具で明るくすると売り上げが増える、という統計データをもとにコンビニ業界に定着した商売の知恵です。その理由も、現在では、「光感受性網膜神経節細胞」に刺激によってお客さんの脳が元気になり、購買欲を増すためだと考えられています。

## ◆寝る前1時間は光の刺激を抑えて脳を休ませる

但し、光の刺激については、一つだけ注意点があります。それは、寝る直前に脳を刺激すると、元気になり過ぎて不眠を招いてしまう、ということです。実際、夜中にパソコンやスマートフォンを見て眠れなくなる人が急増していると言われていますが、これは画面のバックライトに紛れ込んでいる青い光が原因です。ですから**就寝する少なくとも1時間前からは、波長の短い光で脳を刺激するのは控えるべきです**。この様に、学習機の照明は脳を活発にするために「昼光色」で明るくし、勉強が終了して寝るまでのくつろぐ時間は、学習機の照明を落とした状態にするか、脳を刺激しない「電球色」の照明のリビングなどで過ごすのがいいようです。

\*\*\* 照明豆知識（蛍光灯の光源色）\*\*\*

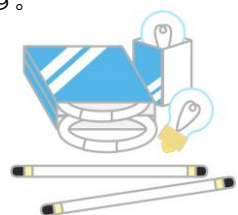
電球色：白熱電球のような温かい光色で、くつろぎのある雰囲気をつくれます。

温白色：柔らかい雰囲気を演出する光です。やや温かみがあり落ち着いた印象を与えます。

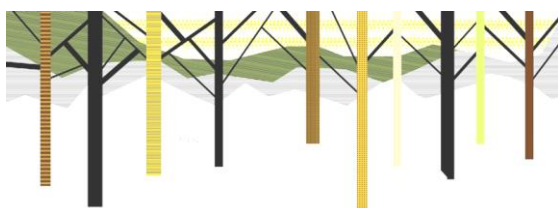
白色：柔らかく穏やかな白色。昼白色と温白色の中間的な光です。

昼白色：ナチュラル色。食品・衣類など物の色が美しく見える光です。自然光に近い色合いの柔らかな光です。

昼光色：クール色。やや青みのある光色で、すっきりとした白さを表現しクールで洗練されたイメージを与えます。



※この連載は、本郷赤門前クリニック院長 吉田たかよし氏の講演内容（録）を転載しました。





# 学力の素(もと)

第33回

## 本当の学力とは ①

当教室の指導  
の根幹です。  
是非ご覧ください！

- ✓ 算数の文章問題を解くとき、すぐに「これ、かけ算？ 割り算？」と聞いてきませんか？
- ✓ ついこの間まで“できた”と言っていたのに、とたんにできなくなってしまうことがありますか？
- ✓ “わかった”と言ったのに、間違えることが多くありませんか？
- ✓ 計算問題は自分からやろうとするのに、文章問題はやりたがらない、ということはありませんか？
- ✓ 問題の意味がわかっていない状態で、機械的に答えだけを出そうとしていませんか？
- ✓ 3年生ぐらいまではできていたのに、高学年になったらできなくなった、ということはありませんか？
- ✓ 「できた」とは言うけれども、「理解できた」「よくわかった」とはなかなか言わないのではないのでしょうか？

このような状態で、仮に学校のテストの点数は良くても、ほとんどが“見かけの学力”である可能性が極めて高いかもしれません。

では、“本当の学力”とは何でしょうか。2回に渡って紐解いていきます。今回は、少々冗長な文となってしまうボリュームがありますが、是非ともご一読ください。



## 「できる」こと と「わかる」こと の関係 <4つのパターン>

### ①「できなくて」しかも「わからない」場合

#### ●理解したいという意欲を少しでも起こさせることが先決

なぜそうなるのかという仕組みや理由が理解できていないので、根本的に物事が「わかっていない」ことになります。わからなければ、「できない」のは当然であり、わかろうと努力せず無気力で指示を待っている子ども、要領の悪い（解決するための手段を考えない）子どもなどが、このケースに当てはまります。

答えに至るまでの過程と、それに伴う結果が、全く理解できないと思ってよいでしょう。



また、結果だけを求めて、なぜだろうという疑問を持たない子が、このパターンに当てはまることもあります。このように意欲の欠如している子どもが、一般的に学力が低い傾向にあるのは明らかです。

このような場合は、まず根本的な仕組みを説明して理解させなければなりません。いや、むしろ、言うは易しですが、理解させると言うよりは、**理解したいと思わせるように根気よく仕向けていかなくては**いけないのです。

## ②「できた」けれども「わからない」場合



### ●結果重視（答えさえ合っていればいい、という感覚）の子に多い

答えだけはあっているが、なぜそのような答えに至ったのか、理由がわからないことがよくあると思います。何となく「できてしまった」という子どもは、物事の本質がわかっていない場合が多いと言えるでしょう。

例えば、「1人あたりみかんを4個持っています。3人では何個ですか」という問題があったとします。今2年生でかけ算の勉強をしている子が、“勘”でそれぞれの数字を選び出し、 $3 \times 4$ というかけ算で12という答えを出してしまうことがあります。これはかけ算とは何か、という意味がわかっていないケースです。つまり、今かけ算の勉強しているのだから2つの数字をかければいい、と安易に問題を“処理”してしまいます。かけ算の本当の意味がわかっていなくても、**機械的に数字を操作するだけで答えを出し、合っていればそれでいいと思っています。**

### ●根拠のない答えを出したり、人の顔色を見て答えてしまったりする子も

また、経験や実体験を元に、理由がわからずに何となくできてしまう場合もあります。これは、要領のよい子に多く、**見かけの学力はあるが本物の学力が身につけていない**という典型的な例です。また、学校の先生や指導者が、子どもに対して必死になって教え込もうとすると、その気持ちに応えようとして、あまり考えないで指導者に迎合した答えを出す子どももいます。これも、**できることにこだわり過ぎるために起こる現象**だと考えてよいでしょう。

### ●わかりたい気持ちがないと疑問を持たなくなり、次第に意欲も低下してくる

最初のうちは、テストで百点を取ってくるので安心していましたが、学年が上がるごとに成績が悪くなってくるといった子どもが少なくありません。そういう子どもは「できた」けれども「わからない」といったことが、日常茶飯事だったに違いありません。

彼らは「なぜそうなるのか」という疑問を持たなくなる恐れがあります。わかりたいという気持ちがなくなれば、わかる喜びは永久にわからないままに終わってしまいます。ただ与えられたことだけを機械的に処理し、主体性が芽生えなくなってしまうのです。

### ●学校の成績は当てにならない

表面的にできただけでは、創造力豊かな子どもには育たないでしょう。「できた」けれども「わからない」といったことは、ちょっと子どもに質問すれば、その状態はすぐつかめます。そうしたら、「わかる」ということがいかに楽しいかを根気強く説明し、一緒に体験させ納得させていく必要があるでしょう。

学校の学習は、わからなくてもできてしまうことが少なくありません。例えば、割り算の単元を学習しているときに、割り算の概念や意味がよくわからなくても、問題のほとんどが割り算で解く問題だということがわかっているのです。機械的に答えを出すことができます。基礎的な問題はほぼできてしまうでしょう。ですから、学校のテストで「できた」ということが「わかった」ことには必ずしもなりませんので要注意です。

### ●自分から学ぼうとするきっかけを身近な事柄で与える

例えば、女の子であれば、料理や手芸（お母さんの得意分野や趣味など一緒にできるものがベター）。男の子なら、サッカー、野球、鉄道、昆虫・・・など、まずは、今やっていることや手軽にできる興味・関心のあることから、自分から学ぼうとするきっかけ作りをすることが得策です。

そこには、学校の勉強の要素を一切入れない方がいいでしょう。あくまでも、**自分の知的欲求（求知心、知的好奇心）を自ら満たそうとする主体性を喚起することが最重要です。**

### ③「わかった」しかし「できなかった」場合

#### ●点数は取れなくても、考えようとする力はあるので心配なし



理屈がわかっていても、テストで間違えることは、誰にでもよくあることです。かけ算やわり算の意味を知っていても、計算などで間違えてしまいます。わかっていたが、ちょっとしたケアレスミスで「できなかった」から、悔しい思いをした人は多いと思います。しかしできなかったことには変わりはないので、テストなどでは、全然わからない場合と同じ扱いになってしまいます。わかっている「できなかった」と見なされ、点数はもらえないことになるわけです。ここに現在のペーパーテストの落とし穴があります。せっかく自分からわかろうと努力しているのに、テストではそれが全く評価してもらえないことは、子どもにとっては腑に落ちないでしょう。しかし、この悔しさが大事だと思います。**できるようにしようとする動機付け**になるからです。

### ●わかろうとした努力を認め、できなかったことは問題視せず、練習の必要性を説く

このような間違いは、ちょっとしたミスさえ気をつければ、すぐに直るようになるので、あまり心配ありません。なぜそうなるのか、その仕組みがわかっているから、少し練習さえすれば間違えなくなり、まず落ちこぼれになる心配はないのです。

そこで大事なことは、子どもに自信を持たせるためにも、**わかろうとした努力は大いに認め、褒めてあげる**ということです。まちがっても、「**どうしてこんなミスをしたの**」はご法度です。親や教師の態度次第で、考える子どもにもなるし、無気力な子にもなることを肝に銘じていただきたいと思います。

「生きる力」を育てることを第一に考えるならば、「わかった」が「できなかった」という場合は、目に見える点数は悪くても、それほど気にしなくてもよいと思います。ちょっとしたアドバイスや励ましの言葉で、いつでも本物の学力に転化する可能性があるのが、このケースと言えるでしょう。

### ④「わかった」そして「できた」場合

#### ●言うまでもなく最も望ましい



学校で習う教科も含め、学習の基本は、当たり前ですがまずその内容を理解するこ

とです。内容を自分なりに理解して、そして「わかった」という状態になれば申し分ありません。この場合、あくまでも子どもが自発的に、わかりたいという気持ちになるように仕向けることがポイントです。さらに、最後の結果である正しい答えを出せば「できた」ことになり、学校の目に見える成績もますます良くなります。つまり、目に見えない隠れた能力だけでなく、目に見える学力（テスト結果）も身に付いたことを示していると言ってよいでしょう。

「わかった」そして「できた」という子どもは、自立した学習ができるだけでなく、考える習慣がついた、創造力たくましい人間に育っていくはずです。



## 「できる」こと と「わかる」こと のしくみ



### ●「わかる」ためには能動的思考のきっかけとなる“疑問”が必要

物事の内容を理解して、「わかった」だけではだめなことは、承知していただけたと思います。もちろんその逆の、「できる」だけというのは、もっと好ましくないことも明白です。**「わかる」ためには、「なぜなんだろう」という疑問を持てないと、だめです。**わかるようになるためには、わかりたいという気持ちがなければいけません。疑問を持てば、それを解明していこうと考えますから、物事を順序立てて整理し、自分の力で自ら能動的に思考することになるはずです。

「これがこうなって、ああなるんだ」という、理屈がわかるようになって、初めてわからなかったことが「わかる」ようになります。すなわち、わかろうとすることにこだわると、どうしても筋道を順序だてて、頭を活用して物事を考えなくてはならないので、論理的思考が豊かになります。

ですから、「わかる」ということを重視した指導は、受け身でない主体的に学習をする喜びを知った、考える子どもが育つと思うのです。

### ●教える側は“待つこと”が必要

そして、「わかる」ためには**“待つ”ことが重要**だと考えています。子どもたちが自ら答えを導き出すまで、余計な口出しをせずじっと待つことが実はとても大事なのです。また、10のうち10を教えてしまうのではなく、7まで教えて残りの3を自力で考えさせるような教え方をしなければ、考える力はつかないと思います。簡単なようで、これがなかなかできません。つい、教えてしまうのです。

**全て教え込もうとしてしまうと、教わる子どもたちは完全に受け身になります。**そうすると、少し目新しい問題を与えると、途端に「こんなの教わっていない」と不平を言います。自分で考えようとしないのです。これは、とても罪深いことだと常々心しています。

### ●「できる」ことで、自己肯定感や自尊感情が高まる

「わかる」だけで本物の学力は伸びてきません。「できる」ことによって、**“自分は成長したな”と自覚することとても大事な**のです。これが、**大きな動機付け**となります。

「わかる」だけでは本物の学力、さらには社会に出て役に立つ学力や知識は身に付かないと思います。先程の算数の問題は、かけ算の意味と九九の計算を知っていれば解けますが、九九を正確に覚えていないため、「できない」小学二年生がけっこういることも事実です。かけ算の計算が苦手な子は、九九を確実に覚えていない場合がよくあります。そのため、せつかくの文章題の意味(先程の例では、

かけ算の意味)がわかっている、できなくなってしまうことが多いのです。そしてやる気を無くしてしまい、わかろうとするエネルギーも失せてしまうこともたびたびになると、学力が低下してしまうかもしれません。



## ●「できる」ためには「努力」が必要。そのあとに「成就感」を覚える

既にお気付きの方もいらっしゃると思いますが、「できる」「できない」は、あまり思考力とは関係ありません。「できる」ようにするには、あることがわかったら、そのための練習をしなくてはなりません。つまり、「**できる**」ようにするには、**ある程度の努力（単純作業）をしなくてはならない**ということです。言い換えれば、訓練と言ってもよいかもしれません。ですから、ある程度の克己心も必要です。スポーツと同じです。

「できる」ためには、努力して練習や訓練をしなくてはならないことは、漢字の学習や九九の暗記を思い出せば納得していただけるでしょう。たし算のくり上がり、ひき算のくり下がり、計算なども、ある程度の速さで正確な答えを出すには、練習するしか方法がありません。中学で習う英語でも、英語の楽しさを知るためには、単語をたくさん覚える努力もしなくてはなりません。もちろんそのような努力をした後、いろいろな問題が解けるようになった、難しい英文が読めるようになった、という**成就感を経験させることが大切**なのは言うまでもありません。そのような知識が多くなれば、さらに「わかろう」とする努力を惜しまない意識が生まれてくるでしょう。

## ●“努力すること”や“我慢すること”は、日常生活で養うべき

小さい頃からのしつけができておらず、やらなくてはいけないことをやらない子、努力をしながらない子、我がままな子は、この「できる」ようにするための練習をすることを、とても嫌がる傾向があります。

おもしろくない、わからないといった理由で努力しない子どもがいますが、「わかって」しかも「できる」ようになるには、ある程度の練習が必要なことも事実です。「**できる**」ようにするための**努力をしていくうちに、「わかる」という喜びを感じる**ことも多いのです。

くどいようですが、**本物の学力を身に付けるには、論理的な思考力を育てて「わかる」ようにすることだけでなく、努力して練習して「できる」ようになること、この二つが大切**でしょう。

## 「わかること」の限界

### ●「わかる」ためには、知識習得が大前提



人間は幼少の頃から、何かを学びたいと思っている能動的な動物です。何かを知りたい、わかりたいという気持ちがあるからこそ、進歩というものがあるのではないのでしょうか。では、わかろうとする気持ちだけで、学力が身に付くのだろうかという疑問が出てくるに違いありません。考えるだけで応用の利く知能が発達するのか？ という言葉に置き換えてもよいでしょう。

当然のことですが、わかろうとする気持ちだけでは、自立した学習ができるようにはならず、本当の意味での考える人間にはならないと思います。意欲だけあってもだめなのです。ある程度の知識がなければ、わかろうと努力しても、そして考えようとしても、その気持ちは継続しないことは明らかです。ほとんど知識がないのに、いくら考えようとしても、何も実になるものは得られません。途中

で考えるのが嫌になってしまうのが落ちでしょう。ここに、わかることだけを追求しようとする人間の限界があると思います。

## ●既習の知識を活用することと、新しい知識を得ること

本当にわかる喜びを経験するには、いろいろな知識も必要になってきます。「なぜだろう」という疑問を持って、何かをわかろうとする場合、私たちは、今までの知識を総動員して考えます。きっかけはあくまでも「わかろう」とすることですが、考える過程では、過去に「できたこと」の蓄積、すなわち**既習の知識**を利用しているはずです。そのため、いろいろな**未知の知識**を身に付けること、言い換えると、「できること」も大切なのです。次にわかるためには知識も必要であることを、モデルで示しましょう。



## ●わかることと知識の関係を示す例

**設問：「寺子屋はなぜ広まったか」** ※中学生向け

この設問に答えるには、まず寺子屋についての知識が必要です。寺子屋のことについては中学1年生あるいは2年生なら、学校で習っているのだから知っているはずですが、しかし寺子屋のことだけを知っていても先の設問には答えられません。「わかろう、考えよう」という気持ちがあっても、たいがい、ここで思考がストップしてしまいます。この先のことを考えるには、次のような知識が必要となってくるのです。

- ・江戸時代は新田開発がさかんであった。
- ・江戸時代は農業の技術が発達し、米がたくさんとれるようになった。
- ・そのため、経済は飛躍的に発展した。
- ・経済が発展したため、商品経済が進展した。
- ・商品経済の進展により、元禄文化や化政文化と呼ばれるような文化が発達した。
- ・文化と余暇が発達すれば、学問をしようとする人々が増加する。

これらは、あくまでも一つのモデルに過ぎませんが、このようなことを考えるには、歴史の勉強を、教科書や参考書で（または書物で）しなくてはなりません。これらの知識を身に付け、論理的に物事を考えられるようにするには、その方法論についての的確にアドバイスを与えて、ある程度思考の道筋を示してあげることも必要でしょう。



## ●知識を得ることによって、知的好奇心が育まれる

このように、たった一つの設問について考えようとするだけでも、いろいろな知識が必要になってくるわけです。様々な知識があれば、わかろうとする機会が増えるだけでなく、考える時間が持続すると言うメリットもあります。わかろうとするだけでは、線香花火に終わってしまう危険性があるので、やはり知識は必要でしょう。

ですから、昨今「アクティブラーニング」や「探究学習」などが声高に叫ばれていますが、本末転倒にならないようにすることが大事だと思います。つまり、必要な知識あってこそ、能動的・対話的・探究的な深い学習が実現できるわけです。

しかし、知識はやみくもに詰め込めばよいというものでもありません。たしかに単純作業のように、ただ覚えなくては（または暗唱しなくては）いけないこともありますが、**何かを「わかろう」とする過程で、いろいろなことを覚えていく**ようになれば申し分ないでしょう。

<野口>

だれでも  
分かる教育情報  
&  
ニュース

\*\*\* 生徒向け \*\*\*

Happy

Valentine's Day



## 「春一番」って、どんな風？

2月に入ると、よく天気予報で耳にする「春一番」。気象庁では、立春（2月4日頃）から春分（3月21日頃）までの期間、日本海で低気圧が発達し、広い範囲で初めて吹く、暖かく強い南寄りの風（8m/s以上）と定義し、北日本と沖縄を除く地域で発表しています。この条件を満たさないと春一番とは呼ばないために、春一番が吹かない年もあります。春一番が吹くと南側から風が吹くことで気温が上がります。日本海側にあった温帯低気圧が西に移動することで、翌日には気温が下がります。このように暖かくなった後、寒冷前線の通過により気温が下がる現象を「寒の戻り」と言います。

春一番は春の訪れを感じさせる一方で、海難事故や鉄道の運行、航空機の欠航など、生活に大きな影響を与える風なので注意する必要があります。

子どもの体力が大幅に低下  
全国体力テスト

スポーツ庁は、小学5年と中学2年の2019年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（全国体力テスト）の結果を公表しました。それぞれの種目の成績を点数化した「体力合計点」が男女とも大幅に低下し、特に小5男子は2008年の調査開始以来過去最低、中2男子も過去5年で最低となりました。種目別に見ると、特に「20mシャトルラン」「持久走」「50m走」で大きな低下が見られました。

生活習慣の面では、朝食を「食べない日もある」と回答した小学生が男女ともに増加しました。またスマートフォンなどによる映像の視聴時間と体力合計点を比較すると、小中学生ともに増加しており、特に男子が長時間化しています。

そして男女とも視聴時間が3時間以上のグループの体力合計点は全国の平均値より低いという結果が出ました。

地質時代に初日本名  
「チバニアン」

地球の歴史のうち、約77万年前～12万年前の地質時代の名前が、国際会議で「チバニアン」に決定しました。チバニアンはラテン語で「千葉時代」という意味を表します。千葉県市原市にある「千葉セクション」と呼ばれる地層には、77万年前に地球の磁場（N極とS極）が入れ替わる地磁気の逆転が起きたことがはっきりと示されています。そのため、その地質時代を代表する名前として、認められたのです。

地層の分析などによる地質時代は117に分けられていて、日本の地層が国際的な基準に登録されるのは初めてのことです。今後、高校の地学の教科書にも「チバニアン」が記載されることになりそうです。



▶ 千葉セクション（写真 小野真志/PIXTA）



開幕まで約半年までにせまった東京オリンピック・パラリンピック。東京では、かつて1964年にオリンピックが行われています。今回は、前回に行われたオリンピックとさまざまな角度から比べてみます。

|           | 第18回オリンピック（1964年）        | 第32回オリンピック（2020年）     |
|-----------|--------------------------|-----------------------|
| ①大会期間     | 1964年10月10日～10月24日（15日間） | 2020年7月24日～8月9日（17日間） |
| ②競技数／種目   | 20競技163種目                | 33競技321種目             |
| ③参加国（地域）数 | 93                       | 206（予定）               |

## ①大会期間

1964年に行われる大会に比べて、2020年の大会のほうが2日間長く行われます。1964年に行われた東京オリンピックは、日本、そしてアジアで初めて開催されたオリンピックです。東京オリンピックの開催日となった10月10日は、後に「体育の日」として国民の祝日に指定されました。現在では10月第2月曜日に変更され、今年2020年には「スポーツの日」と名称も変わります。（2020年のみ、7月24日が「スポーツの日」になります。）

## ②競技数／種目

1964年大会の競技数は20でした。今ではなじみのあるバドミントンやテニス、ラグビーなどは、1964年大会の時は正式種目ではありませんでした。また、水泳やバスケットボール、サッカーなどは、男子しか参加できない競技でした。約半世紀の間に種目も多様化したのです。2020年大会では、オリンピック史上初の競技として、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィンが新たな種目として追加されます。野球、ソフトボールは2008年北京オリンピック以降行われていきましたが、2020年の東京オリンピックでは復活します。



バドミントンが正式種目になったのは1992年バルセロナ大会から。



そのほか、柔道やレスリングなども、かつては男子のみの競技でした。



(master1305, CallMeTak / PIXTA)

## ③参加国（地域）数

国連加盟国の数は、1964年時点の115か国から、2019年現在193か国と78か国も増加しており、世界の独立国の数が大幅に増えたことを意味します。また、1964年のオリンピック参加数は約5500名以上でしたが、2020年大会では、1万2000人以上を予定しています。どのような大会になるか楽しみです。

## オリンピックと技術革新

東海道新幹線や東京モノレール、東名高速道路は1964年大会の開催に合わせて開通されました。

また、1964年大会では、コンピューターを使用してほぼリアルタイムで記録や情報の収集が可能になりました。それまでは記録をまとめるのに約1か月かかっていた。

## 開会式と閉会式で違う国名

オリンピック史上、唯一開会式と閉会式で国名が違ったという出来事が1964年の大会でありました。それはアフリカ南部にあるザンビアです。

開会式の時、イギリスの保護領「北ローデシア」として参加しましたが、閉会式当日の10月24日に独立し「ザンビア」となり、独立国として閉会式に参加しました。